

奥多摩湖に棲む魚たちを紹介します			
平成14年 8 月29日から30日に、奥多摩湖留浦の浮橋で刺網(三枚網・ワカサギ網)とビンドウを用いて魚類を採集しました。平成11年以来 3 年ぶりに行った本調査による採集魚と、過去の調査結果とを比較して報告します。			
実施機関	奥多摩分場	事業名	河川域魚類繁殖助長研究

背景・ねらい

昭和32年に完成した小河内ダムにより出現した奥多摩湖では公式・非公式に魚類の放流が行われてきました。それ以前に多摩川小河内地先に生息していた魚種はウナギ、ヤマメ、アマゴ(移入魚)、イwana、ウグイ、アブラハヤ、カジカ、それと円口類のスナヤツメの8種類だけでした。ダム湛水後に放流記録のある魚種はヒメマス、ヤマメ、サクラマス、ニジマス、アユ、ワカサギ、ホンモロコ、ヒガイ、ソウギョ、レンギョ(種不明)、フナ類(ゲンゴロウブナ)、コイの12種類と、スジエビ、テナガエビの甲殻類の2種です。これら以外に、放流魚に混じってきた魚種や密放流されたオオクチバスが生息しています。

本調査は、奥多摩湖の魚類相を定期的に調査し、その変化を把握することを目的としています(図1、2)。

成果の内容・特徴

採集生物は、魚類13種522尾、エビ類が2種234尾でした(表1)。

漁法別に見るとワカサギ網ではワカサギ55尾など8魚種118尾、三枚網ではオイカワ93尾など9魚種271尾、三枚網(底刺)ではワカサギ76尾など8魚種133尾が採集され、ビンドウではスジエビ232尾、テナガエビ2尾が採集されました。

魚種別に見ると、ワカサギ187尾(全長68~161mm、平均89.1mm)、オイカワ95尾(全長59~151mm、平均116.1mm)、ウグイ83尾(全長53~301mm、平均99.8mm)が多く、次いでヨシノボリ類も多かったが79尾中76尾が稚魚で、網に付いてきた状態でした。

また、ナマズが初めて漁獲され、雌3尾中2尾が抱卵していました。

平成元年以降の採集尾数を見ると(表2)、ワカサギ、オイカワ、ウグイ、ホンモロコが多く採集され、オイカワは平成8年以降多い傾向があり、ホンモロコは平成8年に特に多く、ウグイは増減が他の3魚種ほど激しくなく安定して出現しています。

成果の活用と反映

奥多摩湖は多摩川水系の上流部にあたり、この水域の魚類相を把握することにより中下流域の魚類相調査に役立っています。また、奥多摩湖には漁業権が設定されていませんが、ダムサイト付近の禁漁区を除けば遊漁を行うことができます。将来的な奥多摩湖の有効利用の基礎資料として、今後とも継続的な魚類相調査が必要となっています。

(文責：龍 岳比呂)